



日本にきている木材はどこから?

BY DALIAN OFFICE

現在の日本には多くの中国製品があふれていますが、木を使う家具や建材に関しても同様です。中国は木製家具について日本の輸入相手国第1位ですし、木材の輸入相手国としてもマレーシアに次ぐ第2位となっています。その他、割り箸も多くを中国からの輸入に頼っています。また、2003年に輸出が禁止されましたが、備長炭も中国から輸入していました。

しかし、その元となる原木は、実は中国産ではないものが多いのです。そこで今回は、中国における木材についてレポートしてみたいと思います。



【日本の輸入木製家具（2006年）】

相手国	金額(百万円)	割合(%)
中国	91,282	44.2
タイ	27,571	13.3
ベトナム	19,693	9.5
マレーシア	14,472	7.0
インドネシア	12,996	6.3
その他	40,677	19.7
総計	206,691	100.0

■出典：財務省貿易統計

【日本の木材輸入額（2006年）】

輸入相手国	輸入額(億円)	割合(%)
マレーシア	2,004	16.0
中国	1,820	14.5
カナダ	1,634	13.1
インドネシア	1,364	10.9
その他	5,696	45.5
総計	12,518	100.0

■出典：財務省貿易統計

1. 中国の木材流通状況

多くの木製品を日本へ供給している中国ですが、実は森林資源の保護が叫ばれており、その利用は簡単ではありません。中国では森林の伐採後、植林を行っていないところが多かったため、洪水や砂漠化などの環境破壊が問題となっています。そのため、森林の伐採には規制が多く、中国で生産される木製品の原料(原木)は、多くを国外からの輸入に頼っているのが現状です。

中国の原木輸入相手国としては、ロシアや東南アジアの国々が挙げられます。特にロシアからの輸入は全体の68.2% (2005年統計)に達します。ロシア産原木はシベリア地方で伐採されたもので、シベリア地方と国境を接する内モンゴル自治区と黒龍江省を経由して輸入されています。

特に内モンゴル自治区の満洲里市と黒龍江省の綏芬河市が重要拠点となっております。

【中国の原木輸入状況（2005年）】

輸入相手上位4カ国	輸入数量(万m³)	割合(%)
ロシア	2,004	68.2
マレーシア	186	6.3
パプアニューギニア	184	6.3
ミャンマー	113	3.8
原木輸入総合計	2,937	100.0

■出典：中国林業統計年鑑

り、昨年実績で満洲里市の原木輸入量は984万m³、綏芬河市は630万m³と両市で中国の輸入量の過半数を占めています。

こうした輸入原木の多くは鉄道・海運を通じて各地に設置された木材市場に届けられ、中国全土に卸されています。

2. 木材が入ってくる都市 ～満洲里市～

ここで、中国を代表する原木の輸入拠点である満洲里市をご紹介します。

(1) 概要

1902年に東清鉄道の開通によって満洲里市と命名された人口約30万人の内モンゴル自治区の都市です。東は黒龍江省、西はモンゴル、北はロシアと国境を接します。2006年のGDPは65億元(約1,100億円：年率+14%)、貿易口としての貨物取扱量は2,171万トンに達します。



満洲里市位置図

(2) 特長

中国最大の陸上貿易口であり、ロシアとの貿易が盛んです。また東北三省の資源基地として2006年「東北地区振興規画(国務院)」に組み込まれ、現在インフラ整備が急ピッチで進められています。

ロシアからの輸入上位4品目は、原油、原木、製紙用パルプ、肥料の順で、中でも原木については主要な輸入拠点となっており、木材加工業者が集積しています。外資企業はまだ多くありませんが、日本市場向けに木材加工を行う企業が3社あり、また大連の木材加工業者も鉄道を利用してここから木材を仕入れています。輸入される木材は、針葉樹のアカマツやカラマツなどが多く、集成材や羽目板などの建材用に利用されています。

【満洲里口岸(税関)の対ロシア貿易実績(2006年)】

		貿易額(億ドル)	前年比 増加率(%)	対ロシア 構成比(%)
輸出入合計		66.4	56.7	97.7
うち 輸出	自動車及びシャーシ	5.1	33.9	85.9
	果実類	0.9	45.6	—
	鋼材	0.5	12.3	—
	鉄合金	0.4	13.8	—
うち 輸入		61.3	58.9	98.8
	原油	39.2	112.8	—
	原木	8.0	30.0	—
	製紙用パルプ	3.3	12.7	—
	肥料	2.7	1.7	—

■出典：ジェットロ月刊「中国経済」

3. 大連と木材

中国にも木材市場は各地にあり、上海地区や広州地区で木製品製造業が発達しています。一方、大連もロシアから近く、地理的に海外への輸送に便利であるとの理由から、木製品製造拠点の1つになっています。満洲里市と並ぶ原木輸入拠点である綏芬河市からは、広葉樹であるナラ材やタモ材が輸入されており、これらを利用した家具やフローリングなどを製造する業者が多数存在します。

中国における家具の生産地としては広東省の東莞市や長江デルタ地区などが有名ですが、こちらは欧米や国内向けが多いのに対し、大連は日本木材企業の進出が多いことから日本向け家具の一大拠点となっています。

但し、日本では婚礼家具の減少やマンションの増加により需要が伸び悩んでおり、一部の進出企業は中国国内での販売にも力を入れています。



鉄道で運搬されロシア国境を越える木材

4. 中国の家具市場

現在、中国の家具の販売量は昨今の住宅ブームもあり、非常に伸びています。ただし、製品の売れ筋については、各地に差があり、家具製造業者はそれに合わせた対応を迫られています。

もともと中国の伝統的な家具といえば、紅木(マホガニー)を使った装飾の凝ったもので、東北部ではまだこの伝統的な家具の方が好まれます。しかしながら上海ではシンプルでモダンな家具が販売を伸ばしているといった具合です。そのほか中国での住宅販売がスケルトン方式(内装工事が行なわれていない状態)が主流であるため、家具は統一されたブランドでまとめる傾向があり、家具会社はテーブルや椅子など全て扱えることが要求されています。

5. 最後に

これまで日本へ安価な木材製品を供給して来た中国ですが、今後は価格が上昇してくるものと思われます。

その要因は、中国に原木を供給してきたロシアが原木輸出にかかる関税を大幅に引き上げていることです。今年前半には6.5%だったものが7月からは20%へ引き上げられており、今後も2008年4月からは25%へ、更に2009年1月からは80%へと段階的に引き上げられることになっています。

また中国内での生産コストについても、木材の乾燥に使用する油の価格上昇や労働賃金の上昇により増加する傾向にあります。労働者の最低賃金は今年も引き上げられる予定ですし、地方政府の発表する給与引き上げ基準は多くの地域で10%以上となっています。

中国国内市場の需要が伸びていることもあり、日本が今後も安定して調達するには「いいものを安く」ではなく、「いいものにはそれなりの値段を出す」といった対応が必要となるかもしれません。